

森のおくりもの12月



オオマシコ（アトリ科）



写真：佐藤博美さん（宮城野区）

いよいよ12月です。森は本格的な冬となっておりますが、冬でも楽しんでいただけるのが自然観察の森です。いろいろな展示のほか、12月から自然観察センターの部屋の中からたくさんの野鳥がご覧いただけるバードテーブルを設置しております。この冬もまた太白山自然観察の森でお楽しみください。

（館長 菊池正行）

冬は野鳥が見やすい季節。カモ類は、池や川などにおいて、あまり逃げることもないので、じっくりと観察することができます。今回は、観察の森の筑川にも飛んでくる2種類のカモを紹介します。

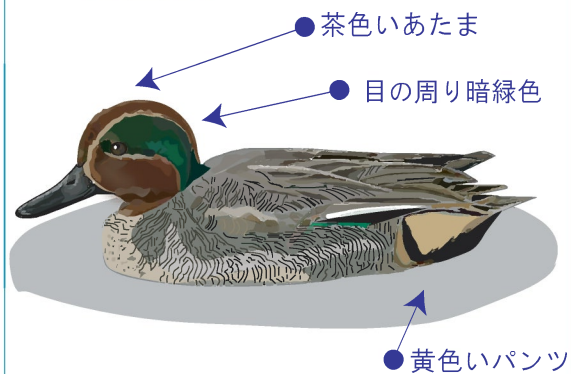
日本では、冬鳥として全国に飛んできます。越冬中にパートナーを見つけ、春に繁殖地へ渡っていきます。グループでコガモがいる時は、求愛ディスプレイ（複数のオスが1羽のメスの周りを鳴きながら泳ぎ回り、首を伸び縮みさせ、お尻を上に戻らす行動）をしている様子が見られるかもしれません。

エサは夜に菜食することが多く、水面を泳ぎながら水草の間の植物質をくちばしでこしとって食べます。草の種子、葉、茎などが主食。

カモの中では最小なのでコガモと名がつけました。他のカモと比べると本当に小さくてかわいいですよ。

コガモ♂

【約38cmハトぐらい】



♪ ピリッピリッ♪と鳴く（み）

くちばしの先だけ黄色

【約61cm】

カルガモ



♪ ゲエ、ゲエ♪と太い声
飛ぶ時、腹は黒く見える

全国の水辺で1年中見られます（北海道では冬に少ない）。

エサは、種子、水生植物、昆虫などを食べます。

日本のカルガモはアヒルとの種間雑種が存在しているとされています。一見、カルガモに見えても、頭がちょっと緑色がかったり、尾羽がくりんと巻き毛になっていたら、それは雑種かもしれません。「なんだ、カルガモか」と思わずに、よく観察してみると、新たな発見があるカモっ？

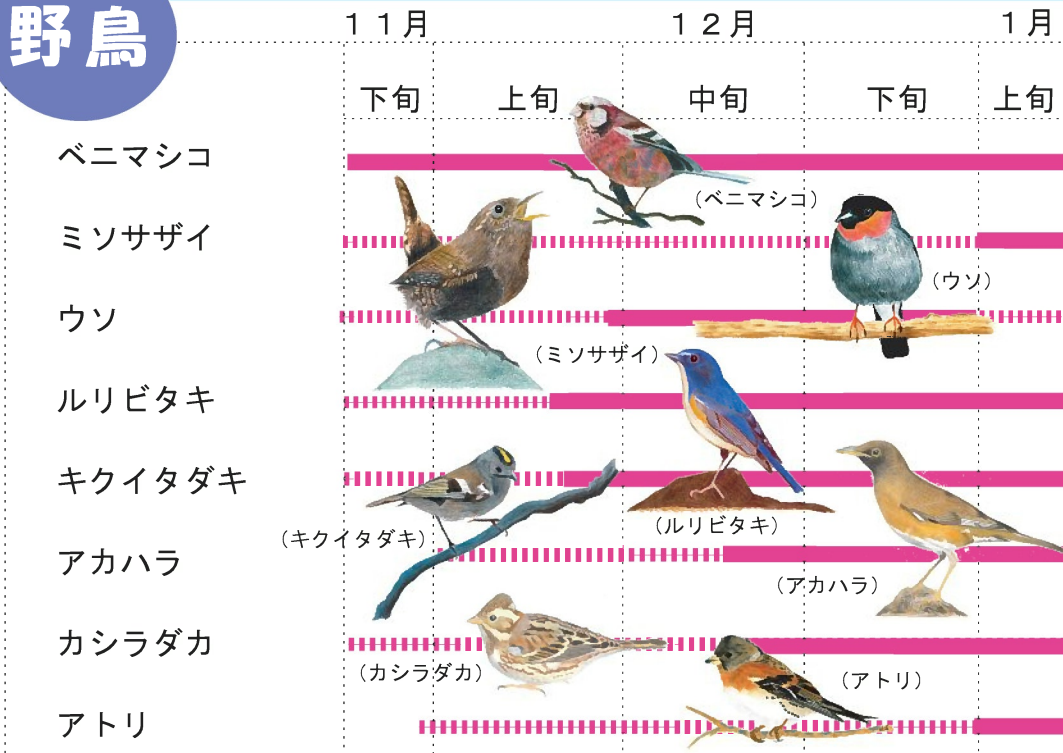
【レンジャー：黒川周子】

* カルガモは現在日本で使用されている90円普通切手のモデルにもなっています。

* アヒルの原種はマガモで、マガモとアヒルを交配させた個体がアイガモです。

12月の生物ごよみ

野鳥



あの暑かった夏も終わり、気づけば12月。木々の葉っぱもすっかりと落ち、森の中も一段と明るくなった。毎年この季節になると、寒い森を優雅に飛んでいる蛾に出会う。大きさでいうと2cmぐらい。明るくなった森の中をひらひらと、ただひたすら飛んでいる。

自分の見える範囲でも10匹ほどいただろうか。とても目立つ。調べてみるとフユシャク（冬尺蛾）の仲間クロスジフユエダシャクだった。

昆虫というと、どうしても夏をイメージしてしまうが、この蛾はなぜかこの寒くなった冬を活動の時期に選んだようだ。カマキリやクモなどの補食から逃れるためなのだろうか。それとこれらは口が退化し、餌を食べることができない。さらに飛んでいるのはすべてオスで、メスは羽が退化して飛べないとのこと。メスはオスを呼ぶためフェロモンを出し、それにオスが集まり交尾をすとのことだ。なんとかメスを探そうと飛んでいるオスを追いかけてみたが、見つめることはできなかった。今シーズンこそ是非メスに会いたいものだ。



クロスジフユエダシャク

【レンジャー：齋 正宏】

レンジャー発 木もれびBLOG



略してコモブロ 第19回『秋色に染まったイベント』

11月16日（土）。晴れ渡る青空のもと「紅葉の鉤取山ハイク」を開催しました。申込み開始とともに定員に達した人気のあったイベントでした。

講師の親川麗子氏による解説は、地面の中から樹木のとっぺんへ、または動乱の明治から未来へと時空間を超えてふくらみ、樹木の根の張り方から紅葉の仕組み、東北地方での森と人の関わりの歴史から、震災後の海岸林再生の話まで、豊富な知識と哲学に裏



付けられた話が次々と出てきて、参加されたみなさんは心地よい身体と頭の疲れを感じていたようです。

当日は天候も味方し、紅葉に彩られた遊歩道は焔のトンネルのよう。モミ原生林内では、舞い落ちた赤いハウチワカエデの葉が、まるで宇宙に浮かぶ大きな赤い星のようで、さながら紅葉の銀河の上を歩いているようでした。

紅葉といえば、もうひとつのイベント「落ち葉アート体験・葉っぱ描いて色あそび」を11月23日（土）に開催しました。

講師に日本画家の千葉裕子氏を招き、水彩による紅葉のグラ



デーシヨンの描き方を学びました。

森でお気に入りの落ち葉を探し、室内でそれをスケッチして色付けしていきま



したが、参加してくれた子供たちの色づかいは、まるでゴッホの絵画を思わせるほど大胆！見ていた親をハラハラさせていましたが、講師の千葉先生は、「それもありませんよ」と優しく声をかけて下さり、最後にはみんな優しい作品に仕上がりました。

自分で描いた落ち葉には、本物以上の思い出が詰まっているでしょうから、作品と一緒に森の柔らかな空気ごと持って帰ってくれたことと思います。

それでは来年もよろしくお願ひします。

【レンジャー：高橋千尋】

生まれ変わった森をゆく～やすらぎの道、はおとの道

息子を連れて観察センターを初めて訪れたのは、今から数年前のこと。未だ息子は幼稚園の頃のことでした。野鳥観察が特に好きだった息子と共に過ごしたセンターの森はそれはそれは楽しく、良き思い出が沢山詰まっていますが、月日は流れ、天気の良い紅葉の昼下がり、ふらりと思い立って自転車を飛ばし、久しぶりに一人で訪ねてみたくなりました。

数々のなじみある場所を歩いてゆくと、森には新しい大きな発見がありました。それは、やすらぎの道の上からみた景色、はおとの道の中腹に設けられた美しい風景の変化でした。景観や木々の成長バランスを考えて不要な木々は伐採され、すっかり風通しのよくなったやすらぎの道からは、遠く太平洋が見渡せ、美しい紅葉の木々やススキが一面に広がっておりました。私は思わずリュックをおき、伐採からでた丸太に座り、しばしこの景色に見入ってしまいました。

余計な木々や草が取り除かれた森は、日の目の当たった喜びを訴えるかのように、一つ一つが存在感をもって美しく出迎えてくれたのです。

ああ、なんという贅沢なひととき。

その時思ったのです。人と共存する里山は、ただ伸び放題な自然とは異なり、人が程よいバランスで手入れをほどこすことで、木々も美しく生まれ変わるのだと。

はおとの道にひっそりと置かれた丸太の椅子たちも、森を歩く人たちにさりげなく心憎い演出と配慮を施してくれ、こころゆくまで美しい紅葉、広がる森を堪能することが出来ました。

これから来たるべき冬の日も、温かなコーヒーとブランケットを持って、またこの森を散策にこよう。息子が成長した今、新たな発見と楽しみを見つけた昼下がりなのでした。



【綺麗に間伐されたやすらぎの道からの眺め】

文：深谷百合苗さん（太白区）



12月のイベント&お知らせ



●12月14日(土) 7:00～8:30

『おはよう野鳥かんさつ』【対象】野鳥・冬の自然に興味のある方
葉が落ちて見通しのよくなった【持ち物】防寒具、観察用具など
雑木林を歩きながら野鳥を観察し【料金】無料
ます。【申込み】不要(直接自然観察センター前
双眼鏡の無料貸し出しあり(数に限りあり) 集合)



●12月1日から翌年3月30日まで

『野鳥のレストラン』をオープンします!

自然観察センター研修室の窓から見える場所に、バードテーブル(餌台)を設置します。館内の暖かい場所からじっくりとバードウォチングを楽しむことができます。

毎週日曜は

『ガイドウォーク』の日!

12月の開催日は
1日, 8日, 15日, 22日

開催時間10:00a.m.～11:30a.m.

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

※12月～3月の間は午前中だけの開催となります。



表紙の絵や
原稿を募集
しています。

里山や自然に関するものを
描いて(書いて)ね!
レンジャーからのプレゼント
があるよ!!

イベント申込用



12月の休館日

2日, 9日, 16日,
24日, 28～31日



年末年始休館のお知らせ

12月28日(土)～1月4日(土)は
休館となります。皆様よいお年を。

♪森へおいでください♪



宮城交通バスの場合

仙台駅前バスプール7番 または 長町前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



Webから「森のおくりもの」バックナンバーが
ご覧になれます。

「**太白山 森のおくりもの**」で検索。

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>

2013年12月号(毎月1回5日発行)

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakusan_moushikomi@sendai-green-association.jp